

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	1	必要時間数	30
担当教員	松 尾		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>運動学は人間の身体運動を科学的に分析する学問であり、リハビリテーション領域の基礎知識として重要な学問になります。身体運動は一見単純に見えますが、その実極めて精緻・巧妙に制御されており、これらの原理を理解するには、解剖学や力学、生理学などの広い分野に関する知識が要求されます。</p> <p>この授業では人間の運動を構成する関節や骨格筋の機能、基礎的な力学、運動に関する神経学的な基礎知識などについて学習します。また、それらの知識をベースとして基礎的な運動である姿勢制御や歩行を理解することを目的とします。</p>		
教科書	なし		

具体的な到達目標	
目標 1	運動器（筋・骨・関節・神経）の構造と働きについて説明することができる。
目標 2	基礎的な力学の知識を用い、身体の運動について考察することができる。
目標 3	各関節の構造と運動方向、その特徴について説明することができる。
目標 4	姿勢制御や歩行について、その概要を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	理学療法士としての臨床経験に基づく実践的な見地から、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師に必要な運動学に関する知識を教授する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		運動学の概要、運動の仕組み①（筋の構造と収縮、運動の指令と大きさ）	
2		運動の仕組み②（運動軸と運動自由度・運動方向、関節の構造と種類）	
3		力学の基礎①（ベクトル、力のつりあい）	
4		力学の基礎②（モーメント）	
5		力学の基礎③（てこ、運動の法則）	
6		上肢の関節と運動①（肩関節）	
7		上肢の関節と運動②（肘関節）	
8		上肢の関節と運動③（手関節、手指）	
9		下肢の関節と運動①（股関節）	
10		下肢の関節と運動②（膝関節）	
11		下肢の関節と運動③（足関節、足趾）	
12		体幹の関節と運動	
13		姿勢制御	
14		姿勢分析	
		前期試験	
15		歩行	

その他の事項

身体力学を理解するには基礎的な物理の知識が必要になります。第3回から第5回の「力学の基礎①～③」ではその辺りも含めてゆっくりと学習をしていきたいと思うので、高校で物理を選択していなかった人もなるべく食わず嫌いをせずに取り組んで頂ければと思います。

また、第6回から第11回の「上肢（下肢または体幹）の関節と運動」は解剖学で学んだ知識を基に授業を展開しますので、事前に解剖学の該当箇所を復習しておくとともに、必要であれば解剖学の教科書を持ってきてください。

質問等があれば教員室または下記アドレスへお願いします。

担当者アドレス : s.matsuo@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	臼井 明宏		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	我が国が健康の保持増進のために、それぞれの家庭・学校・職場・地域社会・生活環境、食事と栄養、運動と休養、メンタルヘルス、法律・制度 をどのように発展させ活かしてきたのかの概要を学び、衛生学・公衆衛生学の現代の活動と意義について学習するとともに、鍼灸師、アロマ指師として必要な事項についても学習する。		
教科書	東洋療法学校協会編「衛生学・公衆衛生学 第2版」(医歯薬出版)		

具体的な到達目標	
目標1	衛生学・公衆衛生学の歴史および意義について、説明することができる。
目標2	健康およびその管理について、食品・栄養・運動と健康との関わりについて説明することができる。
目標3	日常生活環境、環境問題と健康との関わり、労働環境などと健康との関わりについて説明することができる。
目標4	精神の健康と精神障害について説明することができる。
目標5	母子保健、学校保健について説明することができる。
目標6	成人・高齢者保健、生活習慣病などについて説明することができる。
目標7	感染症とその対策、消毒法について説明することができる。
目標8	疫学、保健統計について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	
2		第2章 健康（1. 健康の概要）	
3		第2章 健康（2. 健康管理）	
4		第3章 ライフスタイルと健康（1. 食品と栄養、1）～4）	
5		第3章 ライフスタイルと健康（1. 食品と栄養、5）食中毒 2. 運動と栄養）	
6		第4章 環境と健康（1. 環境とは 2. 日常生活環境、1）物理的環境要因）	
7		第4章 環境と健康（2. 日常生活環境、2）化学的環境要因）	
8		第4章 環境と健康（2. 日常生活環境、3）生物学的環境要因）	
9		第4章 環境と健康（3. 環境問題）	
10		第5章 産業保健（1. 産業保健の意義～4. 労働災害とその対策）	
11		第5章 産業保健（5. 業務上疾病とその対策）	
12		第6章 精神保健（1. 精神保健の意義～3. 精神障害の現状と分類）	
13		第6章 精神保健（3. 精神障害の現状と分類）	
14		第7章 母子保健	
15		第1章～第7章 練習問題など	
16		第8章 学校保健（1. 学校保健法の意義～3. 保健教育）	
17		第8章 学校保健（4. 保健管理～6. 学齢期の健康状態）	
18		第9章 成人・高齢者保健（1. ～3. 生活習慣病の特徴とその対策）	
19		第9章 成人・高齢者保健（4. ～6. 難病対策の現状）	
20		第10章 感染症とその対策（1. 感染症の意義と種類）	
21		第10章 感染症とその対策（2. 発生要因～4. 免疫）	
22		第11章 消毒法（1. 消毒一般。2. 消毒の種類）	
23		第11章 消毒法（3. 消毒の実際～5. 医療廃棄物）	
24		第12章 疫学	
25		第13章 保健統計（1. 保健統計の意義、2. 主な保健統計）	
26		第13章 保健統計（3. 主要な保健統計指標）	
27		第8章～第9章 練習問題など	
28		第10章～第11章 練習問題など	
29		第12章～第13章 練習問題など	
30		全章のまとめおよび国家試験での出題傾向、臨床上必要な感染対策・消毒	

その他の事項

○配布資料

重要なキーワード等を「穴埋め」できる形式で資料を配布します。動画視聴、対面授業の際に、各自で書き入れ、復習がしやすいように完成させてください。

○参考書籍

『公衆衛生がみえる 2022-2023』 出版：メディックメディア

『公衆衛生（系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2]）』 出版：医学書院

『シンプル衛生公衆衛生学』 出版：南江堂

『よくわかる公衆衛生学の基本としくみ[第2版]』 出版：秀和システム

『新衛生・公衆衛生学』 出版：日本医事新報社

※その他、生理学、病理学、臨床医学各論などの教科書(東洋療法学校協会)を参考にしています。

○連絡先

usui@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	30
担当教員	下宮 啓佑		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>あま指の施術を行う上で、各疾患の現代医学的な成因、病態、症候、診断および治療について理解する。</p> <p>また、本授業の履修により、臨床現場におけるあま指施術の適否・各疾患の鑑別の説明、治療の方針の検討を行うことを目的とする。</p>		
教科書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論 第2版、医歯薬出版株式会社		

具体的な到達目標	
目標 1	第9章循環器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 2	第10章血液・造血器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 3	第12章膠原病・リウマチ性疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	<input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、シラバスについて	
2		心不全について	
3		心臓弁膜疾患について	
4		不整脈、その他の代表的な先天性疾患について	
5		冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）について	
6		動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離など）について	
7		血圧異常（高血圧・低血圧）について	
8		心筋・心膜疾患（特発性心筋症、心筋炎、心膜炎、心タンポナーデ）について	
9		赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、再生不良性貧血）について	
10		白血球疾患（白血病、多発性骨髄腫）について	
11		リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫）、出血性素因（紫斑病・血友病など）について	
12		リウマチ性疾患（関節リウマチ）について	
13		膠原病（SLE、全身性硬化症、ベーチェット病など）について	
14		その他の膠原病について	
15		第9章・第10章・第12章のまとめ	

その他の事項

担当教員アドレス：shimomiya@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	黒木 裕士		
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。		
教科書	東洋療法学校協会編、リハビリテーション医学、第4版、医歯薬出版株式会社 上田敏著、目でみるリハビリテーション医学、第2版、東京大学出版会		

具体的な到達目標	
目標1	リハビリテーションの理念と組織について説明できる。
目標2	廃用症候群、過用症候、誤用症候、徒手筋力検査と関節可動域測定について説明できる。
目標3	装具、杖、自助具、車椅子について説明できる。
目標4	主要な大関節の運動学、および正常歩行と異常歩行について説明できる。
目標5	脳卒中のリハビリテーションについて説明できる。
目標6	脊髄損傷のリハビリテーションについて説明できる。
目標7	切断のリハビリテーションについて説明できる。
目標8	小児のリハビリテーションについて説明できる。
目標9	五十肩、変形性膝関節症、変形性股関節症、大腿骨頸部骨折、スポーツ障害、関節リウマチ、末梢神経障害の各リハビリテーションについて説明できる。
目標10	パーキンソン病、呼吸器疾患、心疾患の各リハビリテーションについて説明できる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		100%		
平常点	0%	算出方法	平常点	0%	算出方法 平常点
出席点	0%	算出方法	出席点	0%	算出方法 出席点
その他	0%	算出方法	その他	0%	算出方法 その他
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		リハビリテーションの語源	
2		ノーマライゼーション、自立生活運動、障害構造、障害受容	
3		リハビリテーションの4領域、障害者雇用と特例子会社	
4		地域リハビリテーション、退院後の生活	
5		廃用症候群	
6		過用症候、誤用症候	
7		共同運動、連合運動、姿勢反射	
8		運動学とリハビリテーション医学	
9		機能回復の生理学とリハビリテーション医学	
10		運動治療学とリハビリテーション医学	
11		脳卒中のリハビリテーション概説	
12		脊髄損傷のリハビリテーション概説	
13		切断・小児・骨関節疾患・関節リウマチのリハビリテーション概説	
14		内部障害・がんのリハビリテーション概説	
15		脳卒中急性期のリハビリテーション各論1（急性期）	
16		脳卒中リハビリテーション各論2（回復期、リスク管理、ゴール）	
17		脊髄損傷リハビリテーション各論1（急性期）	
18		脊髄損傷各論2（回復期、脊髄損傷ケアとリスク管理、切断と合併症）	
19		切断のリハビリテーション各論	
20		小児のリハビリテーション各論	
21		いわゆる五十肩・頸腕障害・変形性膝関節症のリハビリテーション各論	
22		変形性股関節症・大腿骨頸部骨折・スポーツ障害のリハビリテーション各論	
23		関節リウマチのリハビリテーション各論	
24		末梢神経障害のリハビリテーション各論	
25		パーキンソン病のリハビリテーション各論	
26		呼吸器疾患のリハビリテーション各論	
27		心疾患のリハビリテーション各論	
28		リハビリテーションと障害、リハビリテーション医学と医療、心身機能・身体構造の評価、活動の評価、参加の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価	
29		運動年齢テスト、失行失認テスト、摂食嚥下障害評価、装具、杖、自助具、車椅子、義肢	
30		関節と関節の力学、姿勢とその異常、脊柱・体幹、肩甲骨・肩、肘と前腕、手と手指、骨盤と股関節、膝関節、足関節、正常歩行と異常歩行、顔面および頭部の筋	

その他の事項

対面の授業冒頭では、それまでの授業回での不明点等について質問時間を設けます。教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。

授業概要

学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	3 2	実施時間数	3 2
担当教員	上田恵介				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論Ⅰは、治療各論、主に運動器疾患を重点に展開する。臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。				
教科書	教科書執筆小委員会、新版 東洋医学臨床論（はりきゆう編）、南江堂、2022年 教科書検討小委員会著、新版 東洋医学概論、医道の日本社、2015年 奈良信雄ら、臨床医学各論 第2版、17刷 医歯薬出版社、1991年				

具体的な到達目標

目標1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標3	疾患、症候に対するあま指の手技を説明できる。
目標4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標7	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。

評価と試験

		前 期	後 期
試験成績	80 点		
平常点	0 点	算出方法	算出方法 平常点
出席点	0 点	算出方法	算出方法 出席点
その他	20 点	算出方法 小テスト	算出方法 その他
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有 <input type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験		
実務経験をいかした教育内容		

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		授業概要シラバス説明・東洋医学のおさらい	
2		疼痛Ⅰ 概説・疼痛Ⅱ 頭痛	

3	疼痛—Ⅲ 顔面痛・脾系統—Ⅶ 歯痛	
4	疼痛—Ⅳ 関節痛・疼痛—Ⅴ 頸頸腕痛	
5	疼痛—Ⅵ 上肢痛	小テスト1
6	疼痛—Ⅶ 肩関節痛	
7	疼痛—Ⅷ 腰下肢痛 疼痛—Ⅸ 腰痛	
8	疼痛—Ⅹ 下肢痛	
9	疼痛—Ⅺ 膝痛	
10	肝系統—Ⅰ 眼精疲労	小テスト2
11	肝系統—Ⅱ 気分障害（うつ状態）	
12	肝系統—Ⅲ めまい・腎系統—Ⅱ 耳鳴り・難聴	
13	その他—Ⅰ 顔面麻痺	
14	その他—Ⅱ 歩行異常	
15	その他—Ⅲ 口渇・その他—Ⅳ 出血傾向・腎系統—Ⅰ 脱毛症	
16	東洋医学臨床論Ⅰまとめ	
	期末試験	

その他の事項

授業の概要

毎時間教科書及び配布資料を用いた講義。

受講するうえでの決まり事

スマートフォンや携帯電話について：講義中の使用・撮影は不可。携帯電話等はマナーモードに設定のこと。

配布資料：配布資料は、教科書と同様、毎時間持参すること。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合があります。

成績評価

試験点数80点 小テスト20点

担当教員からメッセージ

「東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目になります。両方の視点をもって診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、総論、リハビリテーション、経絡経穴概論、東洋医学概論などの教科に関連する科目ですので、都度、復習等を推奨しています。」

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	3 2
担当教員	臼井 明宏		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	東洋医学臨床論は、治療各論を重点に展開する。臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。		
教科書	新版東洋医学臨床論<はりきゅう編> 南江堂 東洋医学臨床論<あん摩マッサージ指圧編><はりきゅう編> 医道の日本社		

具体的な到達目標	
目標 1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標 2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標 3	疾患、症候に対するあま指の手技を説明できる。
目標 4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標 5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標 6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標 7	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業3年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床現場での経験、必要な事項についても教授しながら、授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第2章各論 第1節疼痛 X II胸痛	シラバス説明含む
2		第2章各論 第1節疼痛 X III腹痛	
3		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 IV悪心・嘔吐	
4		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 V便秘、VI下痢	
5		第2章各論 第2節 2-4 肺系統 I咳嗽と喀痰	
6		第2章各論 第2節 2-4 肺系統 II呼吸困難、III鼻閉・鼻汁	
7		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III排尿障害	
8		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 IV E D 第1・2節のまとめ	
9		第2章各論 第5節 I概説、II月経異常	
10		第2章各論 第5節 III性器出血、IV帯下	
11		第2章各論 第5節 V不妊症、VIつわり	
12		第2章各論 第5節 VII骨盤位、VIII乳汁分泌不全	
13		第5節 まとめ	
14		総合問題演習 第1・2節	
15		総合問題演習 第5節	
16		総合問題演習 第1・2・5節	

その他の事項

<授業の概要>

教科書および配布資料を用い、授業を行います。

<教員から>

東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目になります。両方の視点をもって診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション概論、経絡経穴概論、東洋医学概論などの教科に関連する科目ですので、都度、復習等を推奨します。

<連絡先>

usui@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	60
担当教員	松浦英世		
授業形態	実 習	教 室	実施教室を選択
授業目的	<p>これまでに習った基礎医学やあん摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。</p> <p>卒業後の開業した際に症状に合った治療法を学習する。</p>		
教科書	スポーツマッサージ、テキスト配布		

具体的な到達目標	
目標 1	体幹部の体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。
目標 2	体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる
目標 3	内科疾患に対する手技療法をすることができる。
目標 4	臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。
目標 5	卒業後に向けてあま指の総合的な治療法を理解し開業に対する考え方ができるようになる
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70		70
平常点	算出方法		算出方法
出席点	30	算出方法 欠席2点 遅刻1点	30
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の實務経験	
實務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の實務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて40数年の臨床経験あり。
實務経験をいかした教育内容	臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		大腿部前面⑳ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む。	
2		大腿部後面㉑ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む。	
3		鼠径部股関節㉒ 股関節の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。牽引性運動法含む。	
4		治療の概要および太極療法	
5		胃疾患① 肋骨弓角の診方と食道・胃疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
6		肝胆脾② 十二指腸周囲の疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
7		大小腸③ 大小腸疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
8		大小腸③ 虫垂炎・痔疾の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
9		泌尿器疾患④ 腎・膀胱疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
10		婦人科疾患⑤ 月経と更年期疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
11		反射穴に対する手技療法	
12		伸展法実技（下肢編）	
13		前期実技試験	
14		前期実技試験追再試	
15		ストレッチング実技	
16		背俞穴に対する全身編スポーツマッサージ実技（B 腰殿部・C 下肢後面）	
17		呼吸器⑥ 風邪と気管支疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
18		心臓⑦ 不整脈と動悸の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
19		頸肩背部（背俞穴）の全身編スポーツマッサージ実技（A 頸肩背部）	
20		頭痛⑧ 頭部の診方と症状部位の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
21		神経症⑨ 頭部の触診と症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
22		眼科疾患⑩ 症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
23		耳疾患⑪ 耳鳴り・難聴・めまいの局所穴と遠位穴に対する手技療法	
24		鼻疾患⑪ アレルギー鼻炎や嗅覚異常の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
25		顔面部⑫ 顎関節症・歯痛の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
26		伸展法実技（上肢編）	
27		後期実技試験	
28		美顔マッサージ実技 美顔の局所穴と遠位穴に対するマッサージ実技	
29		乳房マッサージ実技 乳房に対する局所穴・遠位穴・反射穴のマッサージ実技	
30		頭髪際刺針法 理論と実技	
31		耳鍼法 理論と実技	
32		診療白書 診察から治療まで	

その他の事項

各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアとなり実技を行う。

専門分野

(マッサージ実技Ⅲ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2023 年度シラバス

授業概要

学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	これまでに習った医学的知識やマッサージの手技を応用し、オイルマッサージにて、腰痛、膝痛などの症候に対する施術を学習する。				
教科書	東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉 医道の日本社				

具体的な到達目標

目標 1	下肢前面・後面の体表観察、触診を行うことができる。
目標 2	腰痛、膝痛などの検査・評価等を行うことができる。
目標 3	下肢前面・後面へのオイルマッサージを行うことができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験

	前 期		後 期	
試験成績	80%			
平常点	20%	算出方法 課題など	算出方法	
出席点		算出方法	算出方法	
その他		算出方法	算出方法	
試験日				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業3年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。	
実務経験をいかした教育内容	実際の症例を参考に、評価・施術等を教授する。	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		下腿後面へのマッサージ(基本手技の確認: 軽擦、圧迫、揉捏) オイルのパッチテスト	タルク使用
2		下腿後面へのマッサージ(基本手技の確認: 鋸切揉捏の3種類、叩打法、露出など)	以下、オイル使用
3		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー① 足底 評価…足関節、足趾	
4		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー② 下腿 評価…足関節、足趾	
5		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー③ 足底・下腿 評価…足関節、足趾	
6		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー④ 大腿 評価…FFD、SLR 等	
7		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー⑤ 大腿・叩打法 評価…FFD、SLR 等	
8		下肢後面へのマッサージ 流れのまとめ: 足底～大腿・叩打法	
9		下肢前面へのマッサージ 流れのレクチャー① 足背 評価…足関節、足趾	
10		下肢前面へのマッサージ 流れのレクチャー② 下腿前面 評価…足関節、足趾	
11		下肢前面へのマッサージ 流れのレクチャー③ 下腿外側 評価…腸脛靭帯、鵠足炎等	
12		下肢前面へのマッサージ 流れのレクチャー④ 叩打法・運動法	
13		下肢後面・前面へのマッサージのまとめ 試験要項の説明	
14		期末試験	
15		試験フィードバック 下肢後面・前面へのマッサージのまとめ	

その他の事項

●参考書籍・DVDなど

『エビデンスに基づく 疾患別クリニカルマッサージ』 大谷素明監訳 丸善出版株式会社

『改訂版 クリニカルマッサージ』 大谷素明監 医道の日本社

『分解写真で学ぶオイルマッサージ完全マニュアル』 長谷川尚哉著 出版:(株)ソクラータクノス (kindle版)

『マッサージスコアで学ぶオイルマッサージ』 長谷川尚哉著 出版:(株)ソクラータクノス (DVD)

●平常点について

課題、実技チェックなどを行い、20%分の評価とします。

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	60
担当教員	川口 隼子、松尾 卓、佐藤 陽子、上田 恵介		
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室
授業目的	指圧療法は、東洋医療の根源ともいべき経絡経穴を重視して、全身を系統的に押圧し、生体の変調を矯正するのみならず、自律神経の支配を受けている内臓機能の変調も矯正し、自然治癒力を喚起して疾病治癒に貢献できる施術である。指圧の基本手技や理論のみに留まらず、遭遇しやすい疾病に指圧を応用し、疼痛や麻痺の運動神経支配の治療だけでなく、自律神経支配の疾病も、内臓体制反射を利用して治療に役立たせ、臨床の場で実践できるように学習する。		
教科書	教科書は指定しない		

具体的な到達目標	
目標1	各疾病に対してなぜこの経絡経穴を使用するのか説明できる。
目標2	治療部位の筋肉や神経の作用を説明できる。
目標3	施術する疾患に対しての適応と禁忌の判断ができる。
目標4	病名にとらわれず、東洋医学の証を立てて治療ができる。
目標5	治療やメモ、カルテを使用してカンファレンスができる。
目標6	各疾患の治療部位にどのような手技を使用する必要があるのか説明できる。
目標7	模擬の患者に対して治療法の説明ができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%	100%	
平常点		算出方法	
出席点	10%	1回欠席ごとに2点。遅刻、早退は3回で2点の減点	算出方法
その他	10%	服装に関して注意を受けた場合、1回につき1点減点	算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	<p>〔川口〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。自宅で開業。</p> <p>〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で10年間の実務経験あり。</p> <p>〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、鍼灸アマ指治療院にて2年間、往診専門で開業6年、本校附属治療所で8年間の実務経験あり。</p> <p>〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で12年間の実務経験あり。</p>
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		肩こりと指圧。西洋医学から考える（経絡は足の太陽膀胱経を中心）筋肉と神経、肩こりの種類など、指圧の基本（2人組で練習）、	川口
2		肩こりと指圧。東洋医学から考える（経絡は足の太陽膀胱経を中心）筋肉と神経、肩こりの種類など、指圧の基本（2人組で練習）、	川口
3		胸郭出口症候群の指圧治療（原因、症候、検査法、治療法）側臥位の指圧を応用する。経絡経穴を応用する（手太陽小腸経、手陽明大腸経など）過外転症候群など。	川口
4		更年期障害と指圧治療（更年期症状と障害の相違点、種類、原因、治療法）	川口
5		肩関節の疾患と指圧治療（種類、原因、症候、検査法、治療法）	川口
6		腰下肢痛と指圧治療（種類、原因、症候、検査法、治療法）坐骨神経痛、その他	川口
7		腰下肢痛と指圧治療（種類、原因、症候、検査法、治療法）坐骨神経痛、その他	川口
8		消化器疾患について（食欲不振、便秘）	川口
9		不眠症と指圧、難経69難について	川口
10		片麻痺について、三角巾、杖の使用方法など	川口
11		片麻痺について、車椅子の実技	川口
12		神経痛に対する指圧（三叉神経痛、肋間神経痛など）	川口
13		神経痛に対する指圧（三叉神経痛、肋間神経痛など）	川口
14		按腹の練習（太田晋斎著の按腹13術）	川口
15		按腹の練習（太田晋斎著の按腹13術）	川口
16		前期試験	川口
17		後期ガイダンス・伏臥位の指圧復習（通し）	上田
18		側臥位の指圧復習（通し）	上田
19		指圧審査1（伏臥位+側臥位）	松尾・佐藤・上田
20		指圧審査2（伏臥位+側臥位）	松尾・佐藤・上田
21		側臥位・坐位・仰臥位の指圧復習	松尾
22		冷えのぼせに対する指圧治療	佐藤
23		耳鳴に対する指圧治療	上田
24		呼吸器疾患に対する指圧治療	松尾
25		便秘・下痢に対する指圧治療	松尾
26		食欲不振に対する指圧治療	佐藤
27		運動麻痺に対する指圧治療	松尾
28		指圧総復習	佐藤
29		後期期末試験	松尾・佐藤・上田

その他の事項

体調管理をして休むことがないようにしてください。授業開始のチャイムが鳴る前に白衣に着替えて臨床室に集合すること。プリントは都度配布します。

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	4	必要時間数	135
担当教員	川口/松尾/臼井/佐藤 /田中/上田		
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。 施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。 「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。 授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。		
教科書	臨床実習の手引き		

具体的な到達目標	
目標1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。
目標2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。
目標3	安全かつ適切な対処や施術ができる。
目標4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。

評価と試験			
	前 期		後 期
平常点	算出方法 後期に準ずる	41点	算出方法 その他の事項に記載
出席点	算出方法 後期に準ずる	59点	算出方法 その他の事項に記載
その他	算出方法	0点	算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	〔川口〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。自宅で開業。 〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で10年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、鍼灸アマ指治療院にて2年間、往診専門で開業6年、本校附属治療所で8年間の実務経験あり。 〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で12年間の実務経験あり。 〔田中〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成学科附属治療院で2年、あはき整骨院で2年間、出張開業で1年の実務経験あり。本校附属治療所で1年間の実務経験あり。

**実務経験
をいかした
教育内容**

(あん摩マッサージ指圧)
あん摩マッサージ指圧における基本手技を必要に応じて病態に適した施術ができるように教育する。

授業の内容

回数	内容	備考
1～ 68	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他の事項

<出席点>59点

- ・総授業数の3/4以上の出席をもって59点とする。出席が3/4に満たない場合、加点はしない。

<平常点>41点

【減点方式】 下限40点

- ・日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など）
- ・「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など）
- ・令和5年7月～9月の欠課、令和6年1月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課

【加点方式】 上限41点

- ・ポートフォリオの提出（4月～12月）
- ・月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。
- ・評価は、優（5点）、良（3点）、可（1点）の3段階とする。
- ・年間を通じて8回実施する。提出が1度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は0点となり、単位未習得になるため注意
- ・8回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点1点とする。

【臨床実習でのマッサージ、指圧の扱い】

マッサージは患者の病態に応じて必要な場合、教員の指示のもと実施することが可

指圧は指圧実技Ⅲ内で実施する指圧審査にて合格したものが基本手技のみ可

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	川口 隼子		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	あん摩マッサージ指圧師は東洋医学的な診察や治療法を基本としているが、スポーツの現場に携わる場合もあん摩マッサージ指圧の手技を行い、アスリートやスポーツ愛好家の運動機能を高め、練習や競技による疲労の回復を促進し、運動器の障害を予防するためのものでなければならない。それには疾患別に治療法を会得するだけに留まらず、運動の種類により使用される筋肉、関節、神経などの違いを熟知し、理学的検査法を用いてアスリートやスポーツ愛好家の不利益にならないような手技の選択ができるように学習しなければならない。		
教科書	教科書は指定しない。		

具体的な到達目標	
目標1	頸椎症と胸郭出口症候群の鑑別について説明できる。(原因、症候、検査法、治療法、)
目標2	肩関節周囲の疾患について説明できる。(原因、症候、検査法、治療法、)
目標3	テニス肘、野球肘について(原因、症候、治療法、禁忌)説明ができる。
目標4	三叉神経痛、顔面神経麻痺について説明できる。(原因、症候、治療法、禁忌)
目標5	シンスプリント、コンパートメント症候群、捻挫、急性期の寒冷療法について説明できる。
目標6	上肢、下肢の末梢神経麻痺について説明できる。(検査法、神経、筋肉、特徴)
目標7	自律神経が原因の疾患について説明できる。(更年期障害、食欲不振など)
目標8	片麻痺について説明できる。(原因、症候、運動法)
目標9	腰部の疾患について説明できる。(種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌)
目標10	膝疾患について説明できる。(種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌)

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%	90%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	10%	算出方法	算出方法
その他	算出方法	算出方法	算出方法
試験日			

全出席を10%1回欠席ごとに2%減、遅刻早退は3回で2%減とする。

全出席を10%、1回欠席ごとに2%減、遅刻、早退は3回で2%減とする。

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	鍼灸あん摩マッサージ指圧師の免許を有し、治療院を開業する。

実務経験を
いかした
教育内容

理論を基本として臨床実習に応用できる。
スポーツ医学の臨床のみに留まらず総合的に多くの体性神経、自律神経系の疾患に応用できる。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		頸椎症について (障害の特徴、症候、検査法、治療法)	
2		胸郭出口症候群について (種類、症候、検査法、治療法、禁忌)	
3		胸郭出口症候群について (種類、症候、検査法、治療法、禁忌)	
4		肩関節周囲炎について (原因、症候、検査法、治療法、禁忌) 瘀血症について、(原因、治療法)。	
5		テニス肘 (症候、検査法、治療法、禁忌) 野球肘 (症候、検査法、投球相と障害、打球時の肘関節へのストレス)	
6		三叉神経痛について (原因、症候、治療法、禁忌)	
7		顔面神経麻痺について (原因、症候、治療法、禁忌)	
8		運動性痙攣について (種類、症候、治療法)	
		マッサージと併用できる運動法 (運動法の種類)	
10		食欲不振について (慢性、急性胃炎、原因、特徴、治療法、食事法) 糖尿病を含む	
11		アトピー性皮膚炎について (原因、症候、瘀血、注意事項、治療法、禁忌)	
12		耳鳴りに関して (原因、症候、治療法、禁忌)	
13		婦人科疾患について、(原因、症候、治療法、) 貧血、月経異常	
14		更年期症状と障害について (原因、特徴、治療法) 瘀血症について、(原因、治療)	
15		肋間神経痛について (原因、発症部位、治療法)	
		前期テスト	
16		肩こり症について (筋肉、神経、)	
17		鼻つまり、(花粉症を含む) 眼科疾患	
18		オーバーストレス症候群について (障害の特徴、症候、治療法)	
19		頭痛について (種類、特徴、原因、治療法、禁忌)	
20		片麻痺について (原因、症状、運動法、良肢位)	
21		末梢性神経麻痺について (上肢の神経麻痺、種類、原因、検査法、治療法、禁忌)	
22		末梢性神経麻痺について (下肢の神経麻痺、種類、原因、検査法、治療法、禁忌)	
23		腰部の疾患について (種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌)	
24		腰部の疾患について (種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌)	
25		膝関節の疾患について (種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌)	
26		膝関節の疾患について (種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌)	
27		シンスプリント、捻挫、アキレス腱炎、コンパートメント症候群 (症候、治療法)	
28		高血圧、低血圧について	

29		めまいについて (種類、原因、治療法、)
30		メディカルチェックについて (全身的なチェック、可動域について) 応点について
		後期テス

その他の事項

教科書がプリントなので紛失しないこと。体調管理は自己責任なので仕事優先で休まないこと。Zoomの授業で、相手が何をしているかこちらから見えませんが、板書や説明もメモって試験に備えてください。